

2022年12月18日 聖餐式説教

降臨節第4主日を迎えました。私たちは今週の土曜日に待望のクリスマスイブを迎えようとしています。

さて私たちは降臨節の福音書を通して、もう一度この世に来られるイエス様を待ち望むことを学び続けてきましたが、今週クリスマスを迎えるにあたり、イエス様誕生にまつわる物語を本日は福音書より学びます。

私たちがよく耳にしているクリスマスの物語は、実は三人の博士の物語以外はすべて、ルカによる福音書からとられています。マリヤのところへ天使の長ガブリエルがイエス様の誕生を告げ知らせた場面、人口調査が行われている中、ヨセフとマリヤはナザレからベツレヘムへ行き、ベツレヘムに滞在している間にマリヤは初めての子を産み、布にくるんで飼い葉おけに寝かせた場面、ベツレヘム付近で野宿していた羊飼いのところへ天使たちがイエス様の誕生を告げ知らせた場面、これらはいずれもルカによる福音書に記されている物語であり、三人の博士の物語だけが、マタイによる福音書から選ばれているのです。

ではマタイによる福音書には、三人の博士の物語以外にイエス様の誕生にかかわる記述はないのかといえばそうではありません。本日読まれました聖書の箇所がマタイの記すイエス様の誕生にまつわる物語なのです。

今日の箇所を読んで驚かれる方も多いのではないでしょうか。マリヤが身ごもったことを知った正しい人ヨセフは、このことを表ざたにするのを望まず、ひそかに縁を切ろうと決心したという、ショックなことが書いてあるからです。

律法の定めによれば、結婚前に身ごもるのは死にあたる罪とされていました。ヨセフは何としてもマリヤの命を助けたいと考えました。そして婚約を解消すればマリヤの命を助けられると考えたのです。律法の定めでも、婚約前の女性が身ごもった場合、その責任は男性のみが問われることになっていて女性は無罪となっていたのです。

そのようなことを思いめぐらしていたところ、イエス様は聖霊の力によって誕生するのであり、マリヤを心配しないで妻として迎えるように伝えたのでした。ヨセフはそれを信じ、マリヤを予定通り妻に迎えたのです。

ヨセフがマリヤを疑った形跡は聖書に全く見られません。また、イエス様が誕生された後、ヨセフとマリヤには四人の男の子と複数の女の子が生まれたことが聖書に記されていますけれども、ヨセフは自らの仕事であった大工のすべてをイエス様に教えています。イエス様は宣教活動を開始するまで大工をしておられましたが、その師匠は紛れもなくヨセフです。神様を信じ、マリヤを信じぬいたヨセフ、ヨセフは本当に信仰の人であったとマタイは語っているのです。

立教新座中学校・高等学校で働いていたころのことです。聖書の授業でこの聖書箇所を勉強しました。男子校ですのでこの箇所の勉強はとても重要なのです。マリヤが身ごもったことを聞いたヨセフ、もし自分がヨセフだったらどう思うかと問いましたところ、一番多かった答えはこれでした。「殺してやる」。なんでそんな恐ろしいことを言うのかと聞くと、「自分の愛が裏切られたからだ」との答えです。

この気持ちはわからないわけではありません。そこでヨセフの姿を学ぶのです。ヨセフは一度としてマリヤを疑ったことはなく、命を助けようと考えました。そしてイエス様にも自分の持っている大工の知識をイエス様に教えました。「殺してやる」などと言って真っ赤になって起こるのと、一度として疑うことなくマリヤのことを信じ続けるのと、どちらが本当の愛なのか、10代の男子生徒たちにぜひ学んでもらいたいこの聖書箇所です。何の証拠もない、確かめようもないことであるけれども、信じ続け、守り抜く中に、神様の御心を私たちが見いだせるのを改めて学びます。

マタイが伝えるもう一つのイエス様誕生物語、私たちもよく心にとめ、信仰の人ヨセフの姿をしっかりと学びたいものです。